

目的 これまでに既製ジーパンの衣服圧計測を行い、形態の相違により腹部および腰部におよぼす影響度が異なることが明らかになった。そこで、次に衣服圧に影響をおよぼしていると思われる後ろの股上線の傾斜と股ぐりの深さについて、衣服圧から比較検討するためにパンツロンを製作し計測を行った。

方法 パンタロンの基本パターンを立体裁断から展開し、後ろの股上線の傾斜角と股ぐりの深さを変化させ、次のパターンについてシーチングとデニムでパンツロンを製作した。パターンは、基本型、股上線傾斜角 10° ・ 20° 、股ぐり深さ $+2\text{cm}$ ・ -2cm 、股ぐり寸法を同一にして股ぐりが深いもの・股ぐりが浅く傾斜角 20° のもの計7種とした。これらについて成人女子1名を対象に、立位・橋座位・中腰位姿勢で、既製ジーパンと同様に衣服圧を計測した。

結果 ① 股ぐりを 2cm 深くすると衣服圧は低下するが、股上線を傾斜した方が衣服圧は低く、傾斜角 20° の動作適応性が最も高い。しかし、外観の美しさにおいて問題が残る。② 基本型と股ぐりを 2cm 浅くした場合は類似傾向を示し、衣服圧は高く、後者の方が動作適応性が低い。③ 股ぐり寸法を同一にした場合、傾斜角と股ぐり深さの衣服圧への影響度の差はあまり明確ではないが、前者の方がやや小さい。④ デニムはシーチングより衣服圧がやや高く、また、パターンの相違が顕著な場合を除き衣服圧に明確な差がみられなかった。